

はぐくみ

自然からの警告と先端技術 輝かしい2026年へ

安城中部小学校長 稲留 雄一

あれだけ暑かった夏が終わると、秋はあっという間に駆け足で過ぎ去り、気が付けば冬。四季は日本の良さであり、そこに文化や芸術が生まれ、豊かな自然や作物の恵みを受けてきたはずなのですが、もしかしたら「二季」になってしまうのでしょうか。「二季」と言えば先日のニュースで、大規模な米の二期作について報道されていました。米不足が叫ばれる現在において、収穫量が増え、しかも味も良いということであれば、どんどん普及すればよいと思うのですが、一方で、こうした栽培が可能になった背景には、気候の変化があることも否めず、複雑な思いで収穫や試食の様子を眺めていました。また、今年は、熊騒動も後を絶ちませんでした。これも自然からの警告の一つなのではないでしょうか。2025年は、自然環境の変化が私たちの生活に様々な形で表れてきた一年だったように感じます。



一方で大阪・関西万博（略称）の盛況ぶりも大きな話題となりました。私も訪れることができました。二日間の滞在でしたが、たくさんの発見や驚きがあり、良い経験ができました。近未来の技術と持続可能な世界を表現した博覧会だと思いました。同時に、脳裏には愛知万博の思い出がよぎっていました。早いもので20年前のことです。「モリゾー」と「キッコロ」です。保護者の皆様の中にも懐かしく思い出される方もいらっしゃるのではないのでしょうか。私は当時9回も訪問しました。

今年はひそかにモリコロパークに通って、愛・地球博20周年記念の催し物にたくさん参加しました。モリゾーとキッコロとミャクミャクと一緒に描かれたピンバッチを買いました。子どもたちに見せたのですが反応は今一つで、だいぶがっかりしました。年が明けても、子どもたちに説明しながら自慢したいと思っています。

さて、2025年の締めくくりです。自然からの警告には丁寧に耳を傾けながら、最新技術に溺れないよう、目の前を見つめ、地に足をつけて新年を迎えたいと思います。除夜の鐘を聞き、年越しそばを食べ、初日の出を拝み、お雑煮とおせち料理を食べ、初詣に出かけます。大切にしたい日本の風習だと思っています。

子どもたちにとって、保護者や地域の皆様にとって2026年が穏やかで輝かしい年になりますことを心より願っております。良いお年をお迎えください。

人権週間12月4日～10日

12月1日に人権集会を行いました。校長先生から、「誰もが自分らしく生きていく権利」があることを話していただきました。また、SNSの使い方にも触れ、発信する言葉や行動が人権にかかわる場合があること、また、周りに悲しんでいる人がいないか想像することの大切さについて考える機会となりました。



そして、この1週間には5年生の子たちによる人権に関する絵本の読み聞かせも行われました。熱心に耳を傾ける姿がどの学級にもありました。